

令和5年度 星翔高等学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、多学科を有する総合学園の強みを生かし、中学生の興味・関心、適性に応じた多様な学びの入り口を提供し、スローガン（標語）である「笑顔輝く学園！」を掲げ、基礎学力、規範意識を基底とした以下の学力・能力・技能等を個に応じた指導で身につけさせる。

	工業技術系 4工学科	普通科 3コース			国際科 1コース
	機械、電子機械、 電気、コミュニケーションシステム	(特進) アドバンス	(総合) キャリア	アスリート	スポーツ
育成したい 学力・能 力・技能等	・「ものづくり」の基礎的な技術・技能・知識 ・工業人としての高い倫理観と責任感	・大学受験勉強、準備等を通じて育成される自己理解・自己管理能力 ・難関大学に合格するための自学自習力、学力	・進路ニーズに対応した学力 ・探究学習等を通じて育成される主体的に学ぶ力、対話力	・スポーツに関する専門知識や技術、競技力 ・スポーツを通じて育成される礼節を身につけた人間力	・国際理解 ・スポーツ技術・技能 ・部活動等を通じて育成される人間力
基礎学力・規範意識（基本的生活習慣）					
進路	大学（理工学系） 就職、専門学校	四年制大学等	大学、専門学校 就職	大学（体育系）、専門学校 就職	大学（体育系）、専門学校 就職

*普通科アドバンスコース、キャリアコースは令和5年度から特進アドバンスコース、総合キャリアコースに名称変更。

*普通科アスリートコースは、令和6年度入試から募集開始。それに伴い国際科スポーツコースは、募集停止する。

2 中期的目標

I. 確かな学力の育成と授業改善

- (1) ICTを効果的に取り入れながら、授業の質の向上を図り、基礎的・基本的な学力が定着できるよう、授業改善に取り組む。
 - ア 授業アンケート結果をもとに教員の授業力の向上を図り、「わかる授業」「魅力ある授業」を推進する。
 - イ 教員の授業力向上のため、教員相互の授業見学や研究授業の活性化と、外部との連携による研修の充実を図る。
 - ウ 補習等のしくみを構築し、基礎学力の向上を図るとともに、1、2年生のGTZのC以上の割合を増やす。
- (2) 工業科の「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。
 - ア 資格取得指導等を通じて、生徒に達成感、成就感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
 - ・ 国家資格を中心とした資格取得指導に注力する。
 - ・ 「星翔高校ドローンスクール」をさらに充実、発展させる。

II. 自立・自己実現の支援

- (1) 基本的生活習慣を確立し、規範意識の向上を図る。
 - ア 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少に努める。
 - イ 人権教育推進・教育相談委員会を中心として様々な人権課題に取り組み豊かな人権感覚を養うとともに、道徳教育の推進を図る
- (2) HR 活動・生徒会活動・部活動及び行事等を通じて「つながる力」を育てる。
 - ア 地域や近隣の幼保小中高大との校種を超えた連携を強化し、自己有用感を醸成する。
- (3) キャリア教育・職業体験教育の充実を図る。
 - ア 「インターンシップ」等の体験的学習を重要な教育活動として位置づけ取り組む。
 - イ 普通科総合キャリアコースのキャリア選択授業における専門学校・大学等との連携授業を継続的に発展させる。
- (4) 自己実現に向けた支援に取り組む。
 - ア 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。
 - イ 普通科特進アドバンスコースの指導充実を図り、国公立大学も含めた難関大学への進学をめざす。

III. 信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 入試広報活動の改善を進め、入学者数の増加を図る。
 - ア 1学年300名以上の入学者数確保、900名以上の規模をめざす。
- (2) 生徒のよりよい学校生活を支えるため、施設設備等の改善を進める。
 - ア 部活動を活性化し、生徒の加入率の向上に努めるとともに、施設設備の充実、安全対策の改善に取り組む。
 - イ 推薦クラブ、クラブ種目等の見直しを含めた普通科アスリートコースの充実、改善を進める。
 - ウ 歴史を重ねた校舎の風合い、空気感を生かし、施設・設備の改修を進める。
- (3) 学科、コースの在り方を見直す。
 - ア 新学科・コースの設置を視野に入れ、学科・コースの編成等について、協議、検討を進める。

IV. 校務の効率化と職場環境の改善

- (1) 校務の効率化を推進する。
 - ア 校内業務の精選と組織分掌等の再編整備をめざし、協議、検討を進める。
 - イ 情報の共有化、迅速化を図るため、校務のICT化を進める。
- (2) 職場環境の改善を進める。
 - ア 「働きやすい職場環境づくり」を推進するため、ストレスチェック等の結果も踏まえ、労働安全衛生委員会等で協議し、改善を図る。

	重点目標	具体的な取組み	評価指標	自己評価
I 確かな学力の育成と授業改善	<p>(1) 確かな学力の育成と授業改善 ア 「わかる授業」「魅力ある授業」の推進 イ 教員相互の授業見学や研究授業の活性化、外部との連携による研修の充実 ウ 基礎学力の向上</p> <p>(2) ものづくり教育・キャリア教育の推進 ア 資格取得への支援 イ キャリア教育・職業体験教育の充実</p>	<p>(1) ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「わかる授業」「魅力ある授業」を推進する。 ・教育実践にICTを効果的に取り入れ、学びの深化を図る。 ・1年普通科総合キャリアコースにおける探究授業（クエストコーポレートアクセス）を継続発展させる。 イ・校長による授業見学を継続実施する。 ・教員相互の授業見学、授業改善の取組みを進める。 ・授業研究ウェブサービスを教員の研修に活用する。 ・保護者の授業参観を実施する。 ウ・朝学習の実施、まなびサポートスペースの活用を推進する。</p> <p>(2) ア・国家資格を中心とした様々な資格取得指導を組織的に進め、達成感、成就感を醸成し、生徒の付加価値を高める。 ・星翔高校ドローンスクールの取組みを継続し、充実させる。 イ・企業や大学等の連携を行うことにより、授業・HR等におけるキャリア・職業教育を充実させる。 ・専門学校・大学との連携を深め、2、3年普通科（総合）キャリアコースにおける選択授業をより一層充実させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」60%以上[56%]。 ・教職員による自己評価「ICT機器を活用した授業」50%以上。 ・クエストカップ全国大会出場[R1～R4連続出場]。 イ・全教員に対して実施。 ・授業見学1人1回以上。 ・各教員1回以上の活用。 ・保護者90組以上の参加[88組]。 ウ・1、2年の朝学習の定着、まなびサポートスペースの利用者30%増。</p> <p>(2) ア・ジュニアマイスター顕彰者数、昨年実績以上[T:0,G:1,S:2,B:1]。 ・操縦技能証明、安全運航管理者証明、無線従事者資格の取得者数50名以上[46名]。 イ・インターンシップ参加者数:10名以上[4名]。 ・生徒の授業アンケート肯定的回答80%以上[87%]。</p>	<p>(1) ア・「授業はわかりやすい」62.2% (○) ・「ICT機器を活用した授業」50% (○) ・佳作。全国大会出場は逃す(△) イ・ほぼ全教員に実施(○) ・1人0.63回(△) ・1回以上の活用はできている(○) ・保護者179人参加(◎) ウ・まなびサポートスペースの利用者121%増(◎)</p> <p>(2) ア・T:2,G:2,S:4,B:6(◎) ・無人回転翼航空機技能証明講習39名(△) イ・17名(○) ・「この選択キャリア授業を受けて、良かった。」3年91.3% 2年85.0%(◎)</p>
II 自立・自己実現の支援	<p>(1) 規範意識の醸成 ア マナーの向上とルール厳守、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少への取組み イ 教育相談体制の充実</p> <p>(2) 生徒会活動、行事等を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の醸成 ア 生徒会活動の活性化 イ 部活動の充実 ウ 行事等の改善、充実</p> <p>(3) 生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実 イ 進路希望の実現</p>	<p>(1) ア・無遅刻週間等の取組みにより、遅刻総数の削減を図る。 ・集会時や日々の学校生活における啓発に加え、立ち番指導等を推進し、問題行動防止に努める。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 イ・特別支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を進め、支援を必要とする生徒に対する教員による相談対応の充実を図る。</p> <p>(2) ア・清掃活動等、社会貢献につながる活動に取り組む イ・部活動を活性化し、生徒の加入率を向上させ、活気ある高校生活が送れるよう、環境整備や安全対策を強化する。 ウ・行事内容、実施時期等の検討を行う。</p> <p>(3) ア・生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路3カ年計画に基づき、指導の充実を図る。 イ・就職希望者の進路実現に向け、きめ細かな指導を行い、就職一次合格率、内定率の向上を図る。 ・大学進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進路指導を行い、進学先決定率を高めるとともに難関大学合格者を輩出する。</p>	<p>(1) ア・遅刻総数4,500以下[5,766]。 ・問題行動年間指導件数25件以下[29件]。 ・転退学率6.0%以下[6.8%]。 イ・学校教育自己診断「保健室や教育相談室等で、気軽に相談できる先生がいる」60%以上[55%]。</p> <p>(2) ア・摂津市のボランティア活動に延べ40名以上参加[43名]。 イ・加入率の55%以上[6月59%、2月60%] ウ・課題意識の共有、意見集約。</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」80%以上[78%]。 イ・就職一次合格率80%以上[74%]。内定率100%[100%]。 ・大学進学希望者決定率100%[96%]。</p>	<p>(1) ア・6,173(△)(1人あたりの遅刻数では8.7→8.5で微減) ・指導件数29件(△) ・転退学率7.6%(△) イ・56%(△)</p> <p>(2) ア・延べ参加人数50名(○) イ・6月52.1% 2月52.8%(△) ウ・長期間実施していなかった校外学習(遠足)を実施。継続実施へ向け、議論を重ねた。他行事については、未検討(△)</p> <p>(3) ア・評価指標を「進路に関する情報を知らせてくれる」から「進路に関する行事の充実」に変更したことが影響、74.3%に低下。(△) イ・就職一次合格率83%。内定率100%(○) ・大学進学希望者決定率97.5%(○)</p>
III 信頼される魅力ある学校づくり	<p>(1) 広報活動と入学者の確保 ア 広報活動の充実 イ 入学者の確保</p> <p>(2) 各種大会等への参加 ア クラブ等の大会への参加、結果</p> <p>(3) さらなる魅力づくりと学校組織の改善 ア 学校課題の対応と迅速な実行 イ 学科・コースの改編に向けた取組み</p>	<p>(1) ア・オープンスクール、入試説明会、出前授業等の精査・充実を図る。 イ・入試広報室を組織的に機能させ、様々な機会を捉えて学校PRを行い、志願者を確保する。</p> <p>(2) ア・学習や部活動成果の発表の場として、各種大会等へ参加し、上位入賞をめざす。</p> <p>(3) ア・経営連絡会(理事長・校長・教頭・事務長・事務次長)で学校(経営)課題を共有し、解決、調整に向けて迅速な対応を図る。 イ・国際科スポーツコースを募集停止し、その教育内容を継承した普通科アスリートコースを円滑に立ち上げる。</p>	<p>(1) ア・オープンスクール来校者2回合計500組以上[642組]、塾長説明会出席60塾以上[55]、塾訪問延べ2000以上[2500]。 イ・入学者数300名[295名]。</p> <p>(2) ア・大会等の成果[なぎなた、無人航空機:全国大会出場、硬式野球:全国高校野球選手権大阪大会ベスト16、電気自動車→エコデンレース3位など]。</p> <p>(3) ア・会議回数と主な内容を示す イ・募集定員の充足</p>	<p>(1) ア・オープンスクール来校者544組、塾長説明会87塾、塾訪問延べ約2500(○) イ・257名(△)</p> <p>(2) ア・男子卓球部:大阪予選5位、男子バレー部:大阪予選ベスト8、近畿大会出場。ビーチバレー近畿大会出場、7位。なぎなた部:全国大会相当の幸村杯出場。男子バスケットボール部:国体代表選手に選出。電気自動車研究部:ENE-1SUZUKA challenge 高校クラス全国2位等 ドローン研究部:ドローンサッカー大会 ランキング1位(○)</p> <p>(3) ア・15回開催。施設設備の改修、改善に関する調整、通信制協力校開設準備打ち合わせ等(○) イ・募集定員70名で61名入学(△)</p>
IV 校務の効率化と職場環境の改善	<p>(1) 校務の効率化推進 ア 校内組織の再編整備 イ 校務のICT化推進</p> <p>(2) 職場環境の改善 ア 「働きやすい職場環境づくり」の推進 イ 教職員の健康管理体制の整備</p>	<p>(1) ア・分掌、委員会等の再編整備の検討を進める。 イ・ICTを活用した校務の効率化を図る。</p> <p>(2) ア・「より働きやすい職場環境づくり」の推進を図る。 イ・働き方改革を踏まえ、勤怠管理システムを導入し、適切な勤務時間の管理を図る。</p>	<p>(1) ア・再編整備素案の作成。 イ・効率化の実現例:2件以上。</p> <p>(2) ア・ストレスチェックの「総合的健康リスク」(専任教員)を基準値100に近づける[普通教育部131、工業教育部115]。 ・教職員による自己評価「職場での相談・人間関係」60%以上。 イ・勤怠管理システムの導入、運用。</p>	<p>(1) ア・未着手(-) イ・効率化実現例:指導要録、出欠管理、成績処理の電子化(○)</p> <p>(2) ア・ストレスチェックの「総合的健康リスク」(専任教員)、普通教育部135、工業教育部152(△) ・「職場での相談・人間関係」57.2%(△) イ・勤怠管理システム導入完了(○)</p>

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校関係者評価委員会からの意見
<p>【生徒】 ○昨年度（前回）に比べ、肯定的回答率が増加した項目 問1. 学校に行くのが楽しい。71.3% (+3.9%) 問2. 授業はわかりやすい。62.2% (+3.9%) 問3. いじめについて、真剣に対応してくれる。61.3% (+3.1%) 問4. 担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。66.7% (+10.5%) 問5. 学校生活について、先生の指導は納得できる。64.2% (+5.7%) 問6. 星翔祭等の行事は、楽しく行えるよう工夫されている。70.2% (+2.6%) 問8. 体育大会は、楽しく行えるよう工夫されている。63.6% (+0.5) *新型コロナ対策のため中止があり、比較は、R2年度。 問10. この学校に入学してよかった。61.6% (+2.9%)</p> <p>○昨年度に比べ、肯定的回答率が減少した項目 問6. 進路関係の行事がよく行われ、学校は進路について情報を教えてくれる。74.3% (-3.5%) 問9. 資格取得を先生に支援してもらえる。67.4% (-1.3%)</p> <p>○生徒の結果分析 質問10項目のうち、8項目で肯定的回答率が昨年度より増加しており、生徒は概ね学校生活全般に満足していると考えている。 一方、肯定的回答率が低下した項目は2項目である。問6については、昨年までの設問に「進路関係の行事がよく行われ」を付け加え、より具体的にすることが影響したと推測している。</p> <p>【保護者】 ○昨年度に比べ、肯定的回答率が増加した項目 問2. 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。67.8% (+13.4%) 問3. 学校の生徒指導方針には共感できる。67.5% (+4.0%) 問4. 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。73.6% (+1.4%) 問5. 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。55.0% (+0.9%) 問8. この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。53.2% (+12.0%) 問9. 保護者会活動は活発に行われている。42.6% (+2.9%)</p> <p>○昨年度に比べ、肯定的回答率が減少した項目 問1. 子どもは、学校が楽しいと言っている。76.6% (-1.0%) 問4. 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。72.2% (-2.0%) 問6. 学校は、子どもに生命を大切にす心や、社会のルールを守る態度を育てようとしている。63.7% (-4.3%) 問7. 学校は、教育活動について、提供の努力をしている。65.1% (-6.3%) 問10. 子どもをこの学校に入学させてよかった。79.0% (-4.4%)</p> <p>○保護者の結果分析 質問10項目のうち、6項目で肯定的回答率が昨年度より増加しており、学校の教育内容全般について、概ね理解が得られていると考えている。 問8、9の肯定的回答率の改善については、新型コロナ感染症の規制緩和が大きく影響していると思われるが、コロナ前の水準であり、「わからない」の回答率が高く、さらなる改善が必要であると考えている。 また、問7の「情報提供の努力」については、最も肯定率が減少した。情報発信ツールの進化に対応が追いついていないと考えており、喫緊の課題と捉え改善していきたい。</p> <p>【教職員】 学習指導・生徒指導・進路指導・特別教育活動・学校運営の観点で、自己評価アンケートを実施した。令和5年度からは、昨年までの全41項目の設問を13項目に精選し実施することとした。 13項目について、50%以上の肯定的回答率があるのは、6項目にとどまっており、昨今の教育課題の多様化、複雑化を反映し、教職員の負担感が増加していることが窺われる。</p>	<p>【中期的目標】 ・ GTZの意味をわかるようにしておくべきである。 ・ 多学科なので、GTZの目標をひとくりにするのは難しい。科ごとの目標設定等が必要ではないか。</p> <p>【確かな学力の育成と授業改善】 ・ ICT活用について、先進校に学ぶ研修が必要である。 ・ 生徒より、教員の方がICT機器の使い方に関して遅れている。 ・ 授業参観日に参加したが、参観後に開催された進学費用に関する講演も盛況であった。 ・ 授業はフルオープンが理想だと思っている。保護者の意見を反映できるしくみをつくって欲しい。 ・ ジュニアマイスターについても、補足資料が必要ではないか。 ・ 学校関係者委員の授業見学の機会を設けて欲しい。</p> <p>【自立・自己実現の支援】 ・ 遅刻総数を評価指標にしているが、分母が変わるので、意味がない。在籍数を加味した数字にするべきである。学年別、科別の数も示すべきではないか。 ・ 遅刻ゼロの日等の取り組みを検討して欲しい。 ・ 複数の学科があり、進路先が多様であるので、生徒から見た進路行事は、科・コースによって捉え方が異なる。一つの項目で全体を把握（評価）するのは困難ではないか。 ・ きめ細かな生徒指導の具体的内容は？</p> <p>【信頼される魅力ある学校づくり】 ・ 入試広報の改善については、具体的な取り組みを示し、何がどう変わったのかを明確にするべきである。 ・ オープンスクールのメニュー、スケジュールの変化（改善点）、それがわかる資料を提示して欲しい。 ・ オープンスクール等の取り組みは、中学校の感触で言うと、好印象をもっている。 ・ パンフレットのモデルは本校生徒か？出身中学校がわかればよい。</p> <p>【校務の効率化と職場環境の改善】 ・ 産業医等、専門家の活用が必要である。</p> <p>【全体を通して】 ・ 学校教育自己診断の4カ年の推移を見ると、「まったくあてはまらない、わからない」が高止まりしている。肯定的回答率ばかりに目を向けるのではなく、「まったくあてはまらない、わからない」を減らす努力をするべきである。否定的回答も見落としてはならない。 ・ 「わからない」を回答の選択肢として入れるのは妥当なのか？ ・ 問8「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」について、「わからない」が多ければ、保護者の関心が薄いと捉える。 ・ 部活動の成果については、敬意を表したい。 ・ 教員の授業見学の自己評価が（△）になっているが、教員に見に行ける余力があるのか。行きやすい体制、環境を整えるべきである。 ・ 3年の「授業がわかりやすい」の肯定率が下がっている。学習の難易度があがっているのかと感じている。</p>